

高坂甚内

高坂甚内(甚太郎)の出自については、高坂弾正の子/孫/異母弟と諸説ある。

甚内は武田家滅亡後、祖父の対馬に連れられて摂津国芥川^{あくたがわ}(大阪府高槻市)まで逃亡して逼塞^{ひっそく}していたが、11歳の時、宮本武蔵(生年：天正10/12年1582/1584年、出生地：播磨/美作)の弟子となり10年間修業を積んだと云われている。宮本武蔵は甚内より年下である。

甚内は江戸へ出て盗賊の首領となったと云われている。江戸での大きな出来事として、江戸市中を荒らす小田原北条の乱破^{らっぱ}の残党である風魔小太郎を捕らえさせたことが挙げられる。忍びや武術に長けた甚内だが、一つだけ弱点があった。持病として瘡^{おこり}(マラリア)を患っていた。甚内は慶長18年(1613)に処刑されるが、処刑の間に「瘡に苦しむ者を救おう」と誓ったという伝説が残されている。仮に、弾正が生きていたとすると86歳なので同時代の人物だったことが窺える。浅草の甚内神社に瘡にご利益のある神として祀られている。命日に当たる8月12日には多くの人が参詣^{さんけい}に訪れるという。甚内は単なる泥棒ではなく、武芸に秀でた特別な出自を持つ貴種流離譚^{きしゅりゅうりたん}的な人物として捉えられている。

(川端紅葉著 2026・2・10)



「高坂甚内 市川団蔵」

[重春画 天保2年(1831年)、早稲田大学演劇博物館所蔵 資料番号：016-0113]